

宮崎発夢未来～感動の共感を世界中に

みやざき中央新聞

〒880-0911 宮崎県宮崎市田吉6207-3 info@miya-chu.jp Tel(0985)53-2600 Fax(0985)53-5800
毎週月曜日(第5月曜日は除く)、月4回発行/1か月1,080円(税・送料込)

8月20日(月)
2018年(平成30年)
2754号

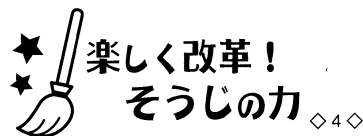
1面
2面記事

上神田 梅雄さん.....料理は魂が食べているのである～ No. 1
コラム・小早祥一郎さん.....楽しく改革! そうじの力～ No. 4
鬼丸 昌也さん.....平和をつくる仕事～ No. 3
千 玄室さん.....茶のこころ世界へ～ No. 2
成澤 俊輔さん.....大丈夫、働けます。～ No. 5(終)
村岡 浩司さん.....九州から世界へ～ No. 4(終)
取材ノート.....村中愛「祖父の思い出とともに」



「閉める」というアクションが入ります。「要らないアクションをなくす」という意味でも、オープンにすることは一つのいい方法だと思います。

「外部の業者さんに、中がぐちゃぐちゃのキャビネを見られたら格好悪いですよね」ということで、左(写真)のようになりまし



株式会社そうじの力 代表取締役

小早 祥一郎

Kohaya Shoichiro

この建築会社の事務所には、事務用品の書類がまとめられているキャビネ(棚)がありました。当初は右(写真)のように扉がついていました。扉がついてると一見きれいですね。でも、この会社では「中身こそきっちり整えよう」と、この扉を取っ払ってしまいました。

見せたい棚、見える床

ただ、扉を全部取っ払うというのは結構な荒療治です。ですから反発もあります。この会社の場合、一番抵抗したのは社長さんでした。扉を取った数か月後、私が再びこの会社を訪れると、外したはずの扉がついていました。「あれ? この間外しましたよね?」と言ったら、社長さんが「すみません。ちよつと怖気づいてしまいました」と笑。そういうリバウンドもありましたが、5、6年経った今は「扉なし」がすっかり定着しています。

岐阜県のとある鑄造工場では、鑄物を作る時に大量の粉じんが発生します。主に砂ですが、石炭などのミクロ単位の目に見えない粉じんも床に溜まっていました。鑄造工場では、どこもこの粉じんがやっかいなのだそう。最初にその工場に伺った時、「この粉じんをきれいにしましょう」とお話ししたら、社員さんたちは「きりがいいんじゃないかな」という反応でした。しかし、今は床が見えるようになっていました。それでもちよつと油断するとまた積もってしまふそうです。それでどうしているかというのと、一つの作業を終えて次の作業が始まるまでのわずかな時間で、さつと掃いているのです。この工場では取り組みを始めてからいろんな変化が起きました。まず、不良率が大幅に下がりました。粉しんに埋もれて見えなかった不良や不備が、クリアに見えるようになったからです。事故や怪我也も少なくなり、社員の定着率も大幅に向上したのです。

(伊丹商工会議所主催の講演会より)